

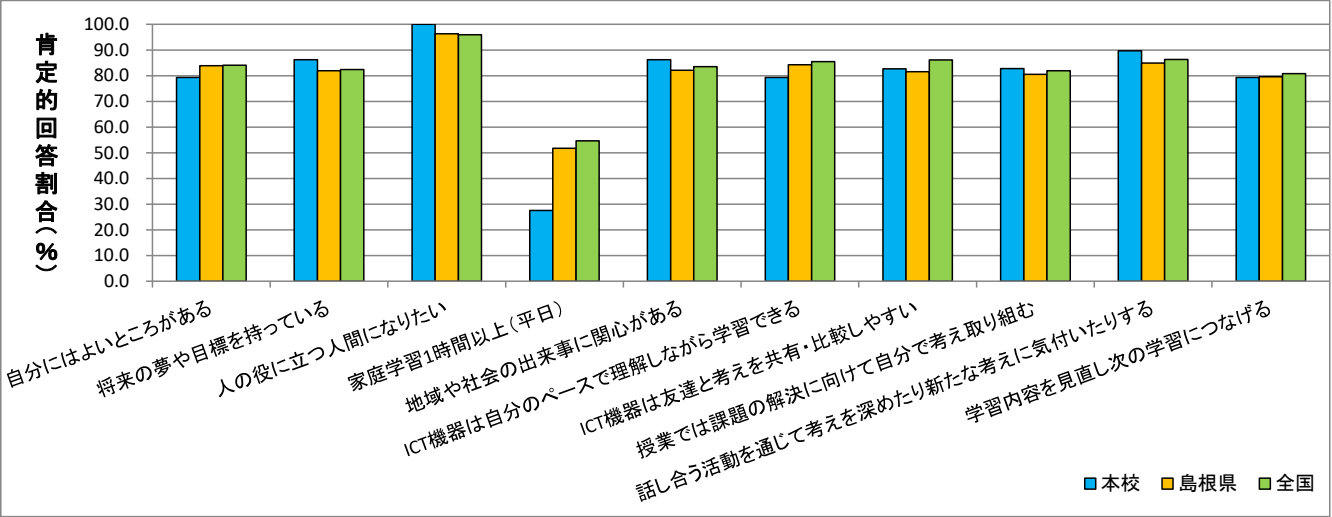
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○無回答が少なく、前向きに取り組もうという意識が強い。 ○情報の扱い方に関する事項が全国平均を超えており、情報を図で表して理解しやすい傾向にある。 ●複数の文章や資料を目的や意図に応じて読み比べたり、情報を分類したりすること。 ●描写を基に登場人物の相互関係や心情などを把握すること。 ●自分の考えを的確に表現すること。	・説明文や物語文の読解では、文章全体を通しての内容や構造を把握することを意識的に行うこと。 ・朝読書などを通して、文章にふれる機会を増やすこと。 ・1つの資料や文書を深く読み進める一方、複数の資料や文章を比較検討の学習する機会を授業内や家庭学習などを通して行うこと。 ・高学年については目的や意図をもって、準備をしてからスピーチや発表をする機会を設定すること。
算数	○無回答が少なく、前向きに取り組もうという意識が強い。 ○絵から正答をイメージする問題への回答率が高く、視覚的に物事を把握することができる。 ○図形領域の正答率が高く、図形概念が備わっている。 ●正答へ向かう求め方や過程を表現すること。 ●文章から問題場面をイメージすること。 ●回答が短絡的で、深く思考できていない。	・自分の回答や問題自体に対して「本当にそうなのか?」、「なぜそうなるのか?」といった批判的な思考をもつことができるように、授業での問い返しや発問を工夫すること。 ・問題を把握するために、具体的な操作や体験的な活動を積極的に取り入れること。 ・誤答や間違いを教師が積極的に取り上げ、児童へ誤答や間違いから学ぶという価値づけをすること。

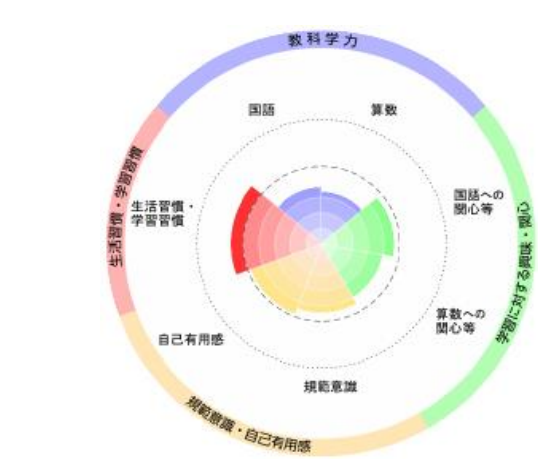
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○「人の役に立つ人間になりたい」という項目については肯定的な回答が多く、ふるさと教育や奉仕活動の充実が成果として現れている。 ○「話し合う活動を通じて考えを深めたり新たな考えに気付いたりする」について肯定的な回答が多く、校内研究の成果が現れている。 ●家庭学習の時間が極めて短いこと。 ●自己肯定感が低く、自分によいところがあると自覚している児童が少ないこと。	・美保関学園で取り組んでいる「学習の手引き」(家庭学習のガイドブック)を継続して活用しながら、家庭学習の充実を図る。 ・書き取り会や計算会等に向けて、計画を立てて自主学習に取り組む時間を増やしていく。 ・家庭学習の量を児童によって調節していく。 ・異学年交流の機会を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める機会を意図的に設定する。 ・積極的な称揚を繰り返していく。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・ICT教育の充実
- ・校内研究「他者と協働し、自らの学びを深めていくみほっ子の育成—自他の考えの比較を意識した「伝え合い」を軸にした算数科授業づくりを通じて—」における児童の聞く力の育成と算数科授業づくりの充実
- ・家庭学習の充実

【受検者数】  
29 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。